

企画名：みんなのデータサイト リニューアルプロジェクト：放射能測定結果をわかりやすく伝える  
プラットフォームへ

団体名：みんなのデータサイト運営委員会

## 1. 報告要旨

2017年9月に日本語サイトをフルリニューアル。トップページで「食」「土」のカテゴリページへの入り口を設置。また「放射能を学ぶ」「解析」カテゴリページを新設。これまでの「単なるデータの羅列」ではなく、読み物としてのコンテンツや原発事故にまつわること、またこれまでに測定したデータなどの解析結果の掲載ができるようになった。

英語サイトについては、2017年12月末に新日本語サイトに対応する形でフルリニューアルを実施。コンテンツの英語化も順次行なっている。

また英語サイトの完成と前後して海外からのアプローチが増加。当初予定していたアプローチとは異なるが、各国の方とつながりを持つことが出来た。2月にはロンドンのLUSHサミットへの参加を通じて日本の原発事故の現状をリーフレットや講演、展示で伝える機会を得た。

さらにベルギーの市民科学についての研究者と大阪大学との合同調査に参加し、日本における市民科学の実践に関する実態調査に協力する機会を得た（レポートは34測定室と60人以上のメンバーにより作成、約200枚。残念ながら非公開）。2018年も継続してベルギーとの連携が約束されており、今後の展開を期待したい。

また台湾とのコネクションにおいては、我々の市民測定データを台湾における反原発活動のために活用される見込みとなっているなど、我々のデータや活動が海外に広がることの実感を得ている。他、参加測定室に韓国忠南大学からの訪問が実現、フランス、ノルウェーなど海外の方に対して日本の実情を伝えることも参加測定室の努力で実現でき、逆に日本の市民への暖かいビデオメッセージを受け取る企画を3月のイベントで実施することができた。

## 2. 成果物

1. リニューアル・[日本語サイト](#)
2. リニューアル・[英語サイト](#)
3. 英語版リーフレット「[Map of 3,400 spots in 17 prefectures and the city of Tokyo](#)」
4. 「市民科学の実践 放射能を測る」『[鎌仲ひとみ動画メルマガカマレポ](#)』No.48（2017.6.14）
5. 大沼淳一「[過酷な放射能汚染地域では帰還の強制ではなく 避難・移住の権利を ～今からでも遅くはない、被曝限度を年間1ミリシーベルトに戻さなければ～](#)」『[図書新聞](#)』No.3308（2017.6.24）
6. [日隅一雄・情報促進流通基金 大賞受賞](#)（2017.12.15）  
「[日隅一雄情報流通促進賞 大賞受賞のご報告](#)」『みんなのデータサイト 新着ブログ』（2017.12.20）
7. LUSHサミット・ロンドンに展開した[展示物](#)（2018.2）
8. LUSHサミット・イベントステージ「[震災・原発事故から7年経ついま](#)」[動画](#)（2018.2.14）
9. 山下めぐみ「[フクシマから7年経った日本の原子力事情](#)」（Lushサミットのレポート）『LUSH Japan』  
サイト
10. 「[【報告】みんなのデータサイトは『LUSH SUMMIT2018』in Londonに行ってきました](#)」『みんなのデータサイト 新着ブログ』（2018.3.3）

11. 平井有太「LUSH 世界の、社会問題解決への萌芽」(Lush サミットのレポート)『ENECT』

[第1回](#) (2018.2.16)

[第2回](#) (2018.3.10)

[第3回](#) (2018.3.15)

12. 石丸偉丈「土壌汚染マップを作成し可視化する」『ふえみん婦人民主新聞』No. 3182 (2018.3.15)